平成27年度　発掘調査報告

掲載日:2015年12月10日更新

平成27年度の発掘調査について

平成27年度に行われている発掘調査について随時報告していきます。

3月10日更新「下山発掘だより」第9号(3月)を掲載しました。

調査研究課の成瀬です。

「下山発掘だより」第9号(3月)を掲載しました。

豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に関連する発掘調査では、土器などの遺物の他に遺跡の土を持ち帰って、分析に出したりしています。今年度は、主に火山灰分析と、土壌洗浄を行いました。

火山灰分析によると姶良(あいら)火山灰(約2万9,000年前～2万6,000年前)、鬱陵隠岐(うつりょうおき)火山灰(約9,300年前)、鬼界(きかい)アカホヤ火山灰(約7,300年前)、カワゴ平火山灰(約3,200年前)、新島神津島(にいじまこうづしま)火山灰(西暦838年頃)が確認されました。これらの時期の違う火山灰の見つかる地層と、遺物などの出土状況から遺跡の時期の推定をすることになります。

土壌洗浄は、土を丁寧に洗浄して植物の種実や昆虫の遺体、鉄滓(てっさい)、炭化物などを探し出します。見つかった種実や昆虫は、遺跡のある場所の昔の環境を考える上で重要な手がかりとなります。また種実や炭化物はさらに年代測定を行うことで遺構などの時期を決める証拠の一つとなります。

こうした分析結果をもとに時期や周辺環境を推定し、報告書に反映していくことになります。

下山発掘だより第9号(3月)

下山発掘だより第9号(3月) [PDFファイル／679KB]

2月15日更新「下山発掘だより」第8号(2月)を掲載しました。

調査研究課の成瀬です。

「下山発掘だより」第8号(2月)を掲載しました。

豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に関連する発掘調査では、多くの縄文土器が出土しています。縄文土器といえばその名の通りの縄の文様をイメージすることが多いと思いますが、実際はいろいろなものを使って文様を描いていることが分かります。

細い竹で小さな丸をつけたり、竹を縦に半分に割って半円やかまぼこのような線を付けたり、太い棒や細い棒で突いたり、太さの違う線を付けたり、棒に文様を彫ったものを転がしたり、へら状の道具でなでたり、削ったりもしています。もちろん縄を使った文様もいろいろで、縄の作り方などで多くの文様が出来ます。また、中には草の実や貝殻などを押し当てたり、転がしたりしてつけられる文様も有ることが分かります。

こうした文様は、ちょうど服などの流行のように時期や地域で変化をしています。これらを調べることで地域間の交流などが分かってくるのです。

「下山発掘だより」第8号（2月）

下山発掘だより第8号（2月）[PDFファイル／1.24MB]

1月20日更新「下山発掘だより」第7号（1月）を掲載しました。

調査研究課の成瀬です。

「下山発掘だより」第7号（1月）を掲載しました。

豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に関連する発掘調査では、土器や石器以外にも、木製品や種実、顕微鏡でなければ見えないですが花粉などの植物質のものも出土しています。

種実や花粉は、植物の種類によってその形や大きさなどが異なっています。そのため出土したものを分析にかけることによって、どんな木を使って木製品を作っていたのか。どんな植物が生える環境で人々が生活していたのかが、わかってきます。

現在こうした分析を進めており、その結果から自然環境全体を復元することも、今後の検討課題の一つとなっています。

下山発掘だより

第７号　2016.1
愛知県埋蔵文化財調査センター

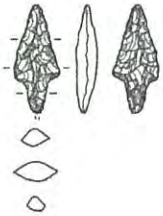
新年を迎え、気持ちも新たに整理作業に取り組んでいます。

＊整理速報

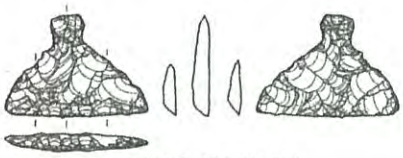
今月もひたすら出土した遺物の整理作業に全力で取り組んでいます。

石器については、図面作成を外部へ依頼し、現在出来上がった図面を点検し、直すところの指示などをおこなっています。完成した図面は、報告書などに使うためデジタル化を進め、今年度の分が半分近く出来上がってきています。石器の図面は、昔の人がどのような順番で石を割って形にしていったかなどの分かるように図にしていくため、非常に手間のかかる作業です。

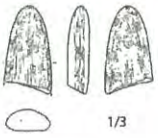
土器については石器よりもはるかに量が多いため、現在も遺跡ごとに並べ、破片をつなぎ、足りない部分を穴埋めしながら、図面作成が必要なものを選び出す作業を行っています。こちらの作業は、残り２遺跡となり１月中の作業終了を目指し、追い込みに入っています。



オンボ日遺跡
有茎石鏃
（ゆうけいせきぞく）



柿根田遺跡　石匙（いしさじ）



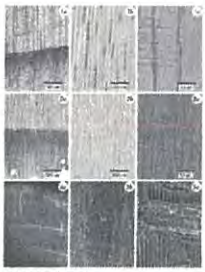
1/3

柿根田遺跡
磨製石斧（ませいせきふ）

＊自然化学分析について

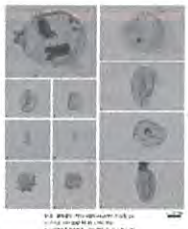
発掘調査では、土器や石器などの他に、植物に関わるものも土の中から出土します。例えば木で作った道具や植物の種、もっと小さなものになると花粉などもあります。木で作った道具になどはどのような種類の木を使っているかを知るためにその一部を薄く剥がし、顕微鏡で識認する樹種同定（じゅしゅどうてい）作業を行います。また、植物の種や花粉などもそれぞれ、種類によって形が違うため顕微鏡などを使い調べることによって、調査した場所にどんな植物が生えていたのかを知ることが出来ます（種子同定、花粉分析）。ただし、これらを調べるためには地層ごとに他の土が混じらないように分けて集めることが大事になります。どんな植物がそこに生えていたのかを知ることが出来ると、その時代の人々がどんな環境で暮らしていたかが分かってきます。

現在の発掘調査は、こうした科学の世界の力も借りて昔の人々の生活を解明していく努力をしています。



樹種同定
（顕微鏡写真）

種子同定
（顕微鏡写真）



花粉分析
（顕微鏡写真）

情報は愛知県埋蔵文化財調査センターのホームページでも公開しています。
愛知県埋蔵文化財調査センターのホームページ
http://www.pref.aichi.jp/0000032060.html

今後もこうしてお知らせします。次号をお楽しみに！

【「下山発掘だより」第7号（1月）】

下山発掘だより第7号（1月）

- 下山発掘だより第7号（1月）[PDFファイル／935KB]

12月8日更新 「下山発掘だより」第6号（12月）を掲載しました。

調査研究課の成瀬です。

「下山発掘だより」第6号（12月）を掲載しました。

豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に関連する発掘調査では、5,000年以上も前の縄文土器から、昭和30年代ごろの人々が使用していたものまで、とても多くの土器類が出土しています。

これらの中には、ごくわずかですが、底部の裏側に墨で文字の書かれた土器があります。そのような土器を「墨書土器（ぼくしょどき）」と言います。主に平安時代の灰釉陶器（かいゆうとうき）や鎌倉時代の山茶碗に書かれています。その時代に、文字を読んだり書いたりできるのは、特定の階層・職層の人々です。

下山地区で見つかった「墨書土器」は、どのような人々が使用していたのでしょうか。今後の検討課題の一つとなっています。

＊灰釉陶器（かいゆうとうき）：木灰などを水に溶かして、釉薬（ゆうやく）として掛けて焼かれた古代の土器。

＊山茶碗（やまぢゃわん）：平安時代の終わりから鎌倉時代全般にかけて東海地方の製陶地で焼かれた硬質で無釉の碗、皿類。

下山発掘だより　第6号　2015.12
愛知県埋蔵文化財調査センター

朝夕の寒さが増し、紅の彩りなども冬の装いにすっかりかわっています。

＊整理速報

今月もひたすら出土した遺物の整理作業に全力で取り組んでいます。

石器については、図面作成を外部へ依頼し、現在出来上がった図面を点検し、直すところの指示などを行っています。完成した図面は、報告書などに使うためデジタル化を進めていくことになります。

土器については石器よりもはるかに量が多いため、現在も遺跡ごとに並べ、破片をつなぎ、足りない部分を穴埋めしながら、図面作成が必要なものを選び出す作業を行っています。作業をしていると、8,000年以上前の縄文時代の土器から今から60年ほど前の昭和30年代に炭焼きを行っていた人々が使用した焼き物まであり、を区ずるのに便利とは思えない山の中で人々が暮らしつづけてきたことが分かります。

＊墨書土器について

整理作業をしていると、平安時代の灰釉陶器（かいゆうとうき）や鎌倉時代の山茶碗に墨で文字を書いたものを見つけることがあります。これらを「墨書土器（ぼくしょどき）」と呼んでいます。

接合作業状況

復元作業中の土器

接合・復元の完了した土器

下山地区で出土したものの多くは平安時代の椀や皿の底の外側に文字が書いてあるものです。それに内側に文字が書いてあるものもあります。平安時代は今と違い、文字を読んだり書いたりすることの出来る人は、役人や僧侶・神主など文筆を扱う仕事をしている人以外にはほとんどいなかったと考えられていることから、下山にもこうした人々がいたと考えられますが、文字を書くための筆や墨、硯といった道具が見つかっておらず、書いた物を持ち込んだのか、現地で書いたのかは残念ながらはっきりしません。

書かれている文字で目立つのは「大」「春」「本」などで、他に「有」「東」「時」などが確認されています。ただ「本」や「時」は異体字（読み方や使い方は一緒だが、標準の漢字とは一部が違うもの）が使われており、「本」は「大」の下に「十」を書いたもの、「時」の場合は「日」の代わりに「月」が使われていました。こうした平安時代の墨書土器を整理していくことで、当時の人々の生活の一部を明らかに出来ればよいと思います。

「大」

「本」（異体字）

「時」（異体字）

「有」

☆情報は愛知県埋蔵文化財調査センターのホームページでも公開しています。
愛知県埋蔵文化財調査センターのホームページ
http://www.pref.aichi.jp/0000052060.html

今後もこうしてお知らせします。次号をお楽しみに！

【「下山発掘だより」第6号(12月)】

「下山発掘だより」第6号(12月)

- 「下山発掘だより」第6号(12月) (27hakkutudayori6201512 [PDFファイル／283.45 KB])
  「下山発掘だより」第6号(12月)

11月16日更新 「下山発掘だより」第5号(11月)を掲載しました。

調査研究課の成瀬です。

「下山発掘だより」第5号(11月)を掲載しました。

豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に関連する今年度の発掘調査は、9月に現場での調査を終え、現在は整理作業に取り組んでいます。

これまでの調査で出土した遺物のうち、石器に関しては、分類が終了して図面作成の段階に入っています。土器及び陶器については、接合作業・復元作業を遺跡ごとに進めています。一つ一つの土器片がつながって徐々に大きな壺などが復元されていく過程をみながら、昔の下山地区の人々の生活について思いをはせています。

下山発掘だより　第5号　2015.11
愛知県埋蔵文化財調査センター

朝夕の寒さが増し、冬のおとずれが徐々に近づいてくるのを感じるようになりました。

＊整理速報

今年度は、外に出ての発掘作業が9月で終了し、これまでの調査で出土した遺物の整理作業に全力で取り組んでいます。

現在は、これまでに石器の分類がほぼ終了し、その中でも重要と思えるものの図面作成に取りかかっています。また、土器や陶器などについても全体の6割程度の分類が終了し、破片の接合作業や足りない部分を補う復元作業などに取り組んでいます。中には接合・復元でかなり大きな壺（つぼ）になったものもあり、今後も、こうした遺物が増えてくれるのを期待しつつ作業を進めています。

今後は、土器についてもより重要と思えるものを図面にするための選び出し作業を行っていく予定となっています。

復元作業風景

接合作業風景

接合・復元の完了した壺

＊ご報告

10月24日（土）に開催された豊田市下山文化祭のふれあい祭りに合わせ、今年度の発掘調査の成果を発表いたしました。

今年度の調査で出土した遺物などの展示には約140名もの方に来場して頂きました。当日は豊田市の副市長さんや地元選出の県会議員さんも来館され、熱心に説明を聞いていかれました。

午前中に行われた報告会には約20名の方が来場され、発表者の話に耳を傾けてくださいました。

また、今後からの土器の接本体験では、10名ほどの方が参加され、小さな子供から年配の方まで幅広い年代の方に体験して頂きました。

こうした形での開催は、今年度で3回目でしたが、本来に終日の内に終わることができ、まことにありがとうございました。また機会がありましたら、お知らせいたしますのでぜひお越しください。

☆情報は愛知県埋蔵文化財調査センターのホームページでも公開しています。
愛知県埋蔵文化財調査センターのホームページ
http://www.pref.aichi.jp/0000052060.html

今後もこうしてお知らせします。次号をお楽しみに！

【「下山発掘だより」第5号(11月)】

「下山発掘だより」第5号(11月)